

第 11 次総合計画における重点プロジェクト（まち・ひと・しごと創生総合戦略）等に対する厚木市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議からの意見等

1 総合計画について	
委員からの意見等	事務局の考え方
長期ビジョンは 10 年間変わらないのか。また、アクションプランについても 5 年間変わらないのか。	長期ビジョンは中間年である令和 12 年度に見直しを行う。また、アクションプランは、毎年度の進捗を評価し、必要に応じてその都度見直しを行う。
第 10 次総合計画の構成等との違いは。	第 10 次総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画の 3 層構造としている。第 11 次総合計画は、長期ビジョンとアクションプランの 2 層構造として策定を進めている。なお、長期ビジョンが基本構想と基本計画に相当する部分で、アクションプランが実施計画に相当する部分である。
素案の施策に位置付けている成果指標について、現状値と R12 目標値、R17 目標値が同数になっているものがあるが、設定根拠は。	減少傾向にある指標については、これ以上減らさないように現状維持していくことを目標値として設定している。
総合計画が重点プロジェクトで、各施策のステークホルダーが誰かを明記した方がいいのではないかと。	重点プロジェクトの中で、表現できるか検討したい。

2 重点プロジェクトについて	
委員からの意見等	事務局の考え方
重点プロジェクトに位置付ける戦略の順番に意図はあるのか。	資料3の戦略の順番については、人口減少社会の中でいかに和らげていくのが重要になる。現在、社会動態が順調なので、更に伸ばしていくことを考え、戦略1に定住促進を入れている。戦略2についても、人口の関係を自然動態の視点から位置付けている。戦略3については、しごとの関係を位置付けている。イメージとしては、総合戦略を踏まえ、戦略1が「まち」、戦略2が「ひと」、戦略3が「しごと」として位置付けている。
資料2の(4)に「技術」という言葉が出てくるが、資料3の戦略1から3までのどれに当てはまるのか。	戦略3の施策①で企業誘致や中小企業支援の位置付けを考えているので、そこに当てはまる。
戦略2の施策②について、主な取組等の「学校教育」に取り組んでも、数値目標の「0～4歳人口」は増えないのではないか。	学校教育の取組を進め、厚木市の学校で学ばせたいと思える環境をつくり、そのために厚木市で結婚・出産をしたいと思ってもらえる環境づくりを進めたいと考えている。
戦略2の施策③について、主な取組等に位置付けている「若者の住宅取得支援」は、戦略1の方がいいのでは。	「若者の住宅取得支援」については、厚木市に住んでいただき、出産していただくところまでつなげていきたいと考え、戦略2に位置付けている。
戦略3の施策③について、主な取組等の「生涯学習」はどのように数値目標に結び付くのか。	リカレント教育といった視点で位置付けている。